

～軒で出会い、軒から生まれる物語～

7月31日(日) 10時30分～

奥田知志牧師

キリスト教講演会  
「幸せになる方法」

長年のホームレス支援、阪神淡路、東日本、そして熊本大地震の被災地支援、  
困窮状態に置かれた人々との日常的な関わり……。 其中で感じてきた  
キリストの福音の真実……。



おくだ ともし  
奥田 知志

※入場無料ですが、席上献金があります  
※駐車場はありません。公共の交通機関  
をご利用ください

1963年、滋賀県生まれ。関西学院大学神学部大学院修士課程卒業、西南学院大学神学部専攻科卒業。学生時代に訪れた大阪市・釜ヶ崎(現:あいりん地区)の日雇い労働者の現状を目の当たりにし、ボランティア活動に参加したことがきっかけで、以来、ホームレス支援に関わり続けている。

1990年、日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会の牧師就任。  
2000年にNPO法人北九州ホームレス支援機構設立時に、理事長に就任。  
また、ホームレス支援全国ネットワーク代表等も務めている。

現在、北九州を中心に、4カ所の自立支援施設を運営する。活動開始後24年で1500人以上のホームレスを自立へと導き、自立継続率も9割以上という驚異的な実績を持つ。NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」に2度出演するなど、その活動は、マスコミにもしばしば取り上げられている。

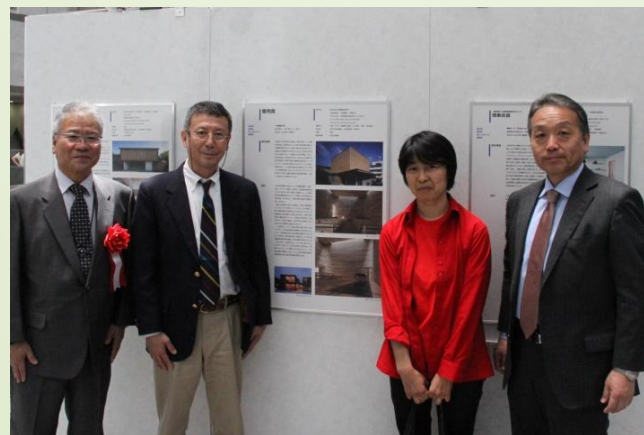


軒の教会が、グッドデザイン賞に続き、



表彰式には設計を担当された手塚建築研究所代表の手塚由比さんや、施行を担当された東建設の東邦夫社長も出席されました。(写真右、右下)

表彰状とトロフィー (写真下)



「福岡県美しいまちづくり建築賞」も受賞!

（文化庁）によるとキリスト教系の宗教団体数は九二七七。信者数は一九〇万八四七九人。前年比で一万二四一三人減少したという。

ただし、このような傾向は、キリスト教に限らず宗教全般、特に伝統的宗教にみられる傾向だと言える。仏教界においても「寺院消滅」(鶴飼秀徳著)を読んだ。消滅自治体が話題になって久しい。このままだと二〇四〇年までに八九六の自治体が消滅するといわれる。寺院消滅は、このようないくつかの報告されている。また、元外務省主任分析官で作家の佐藤優が本書で解説したことを指摘している。「宗教が衰退しているのは、死に対する意識が変化しているから」と私は見ている。葬儀を行わず、墓をつくらない人が増えているのは、死に対する意識の変化だ。生のみを追及して、死は無意味であるという発想は間違いだと思ふ。人口減少、死の意識変化、いずれも「寺院消滅」の要因であると思ふ。だが、それだけではない。そもそも宗教が自らの存亡の原因をそんな「外的要因」にだけ見出すこと自体危険だと思ふ。その意味を見失い、魅力がなくなっているからだと思う。「死に対する意識が変化」して「たのしみ」である宗教が、それによってどう対応したのか。その変化と闘うなり、変化に対応する教を語ってきたのか。自戒を込めて問いたい。なぜ、寺院は、教会は、衰退したのか。

日本の私立学校の六割は、キリスト教主義学校である。福岡の西南学院のように「成長」している学校もあるが、それがキリスト教人口増加にはつながらず、キリスト教主義学校には、整合している有名私立進学校が多い。西南学院の創立百年の時、卒業生の中村哲也(ペンシルワール会)が記念講演で「単に羽振りのいい学校にならないように」と釘を刺されたが、時代に迎合することで人気が出て、自らのアイデンティティを見失った者はいずれが、時代を滅びる。ちなみに私は、現在西南学院の理事である。

なぞ人々には教会に力をつたつたのか。旧態依然のスタイル。わかりにくい説教。教会の中でしか通用しない言葉や概念を無配慮に押し付けられる傲慢な態度。一方で、問題を「心の問題」と自ら限定して(あきらめて)いる。いろいろな要因が思い浮かぶ。しかし、私が思う最も大きな要因は、キリスト教が語ってきた「救い」そのものにある。思っている。すなわち教会が伝道してきた「救済論」が傲慢でエゴイストティックで差別的であったからだと思う。少々否定的過ぎるとお叱りを受けるかも知れないが、当事者の最たる者である牧師としては、これぐらい自己吟味しなければならぬと思っている。

これまで教会は、「信じる者は救われる」、あるいは「洗礼を受け、キリスト者になった人は救われる」と教えてきた。「クリスチャンは救われていないが、ノンクリスチャン(クリスチアン)は救われてきた。そうなる、家族で、クリスチャンになった家族は天国に行き、クリスチアンにならなかつた家族は地獄に行く」ということになった。しかし、そんな酷い話のどこが「救い」なのかと思う。私自身を救ってくれたことには感謝するが、かといって私の愛する家族を地獄に落とす神などというものは神でもなんでもない。

教会には「死ぬ前に洗礼を受け天国へ」という切迫感の現れと言えよう。つまり、「このままでは間に合わない。洗礼を受けなければ天国へ」という切迫感の現れと言えよう。この「間に合わない」ということには、間を合わせない、間を合わせない、と「家族を救えなかつた」と悔いることになる。そんな負い目を持つクリスチャンは少なくない。キリスト教会における伝統的な「伝道」とは、既に救われて天国を約束された人と自認する人が、まだ救われていない人に救いの道を教えることを意味してきた。そのような教会の伝道姿勢には、「無知蒙昧」な人々に真理を諭すという啓蒙主義の傲慢さが見え隠れする。従来教会が語ってきたそのような「救い」自体が、キリスト者と教会を呪縛してきたのだと思ふ。この差別性に基づかぬまま「救い」を続けることによつて、ますますキリスト教はジリ貧になっていく。教会は、安心したい。東八幡キリスト教会は、そのように考えない。イエスは言う。「わたしが来たのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らせて下さる。「いづれもマタイ福音書より」。東八幡キリスト教会の告白する神は、ケチなお方ではない。イエスは、「すでにあなたを救っています。赦さされています。安心して下さい」といふ内容である。そして、洗礼を受けてクリスチャンになる意味は、「すでに愛され、赦された者」として、誰を愛し、赦し、誰と共に生きていくかという問いには、いかに愛され、赦されたか」ということにある。その意味で、クリスチャンになることと救いとは、何の関係もない。

改めて言う。すべての人は、既に救われている。だから安心してほしい。そして、だから「東八幡キリスト教会」の二〇一六年度の教会標語は、「神様は、どうでもよいと思ふ教会になるほどお暇ではあります。この事実を証明するために、ひとりひとりを大切にしたい。教会を共に証明し、共に喜ぶため、多くの教会に「軒の教会——東八幡キリスト教会」に参加していただくことを願っています。

# 荒生田塾

## 映画「わたしの自由について～SEALDs 2015～」上映会を行いました！



TEL ME WHAT I LOOK LIKE  
LOOKS LIKE

わたしの自由について  
-SEALDs 2015-  
直曲に

昨年9月19日、私たちは国会前に集結した多くの群集。否、安全保障法案の可決を阻止したいと切実に願う人と人の結束する姿に、熱い涙を流していた。安保法案は力及ばず可決されてしまった。がしかし、この国の為政者たちが間違っている時、わたし達は、何度でも声に出して、おかしいものはおかしいと、ダメなもの駄目だと、叫び続けることがどんなに大事なのかを、泣けるほど知ったのだ。

こんなあたり前の大切な事を、ぼくたちに教えてくれたのは、SEALDsの学生たちだった。彼ら学生が、『わたしの自由のために』繋がり、多くの同志を作り、この国の主権者が私たち一人ひとりであることを、社会全体の運動として、思い出させてくれた。この全体の活動、舞台裏が全てこの映画に詰まっていた。

7月10日の参議院選を一週間後に控えた今、わたし達はもう一度、民主主義をこの国に取り戻さなければならぬ！憲法を改正し、基本的人権の条項を削除しようとしている現政権に対して、再びNOを言い渡すためのリベンジを果たすのだ！

奥田愛基  
変わる  
絶望から  
始めよう

SEALDs  
創設メンバー、  
23歳のリアル。



### 定例集会

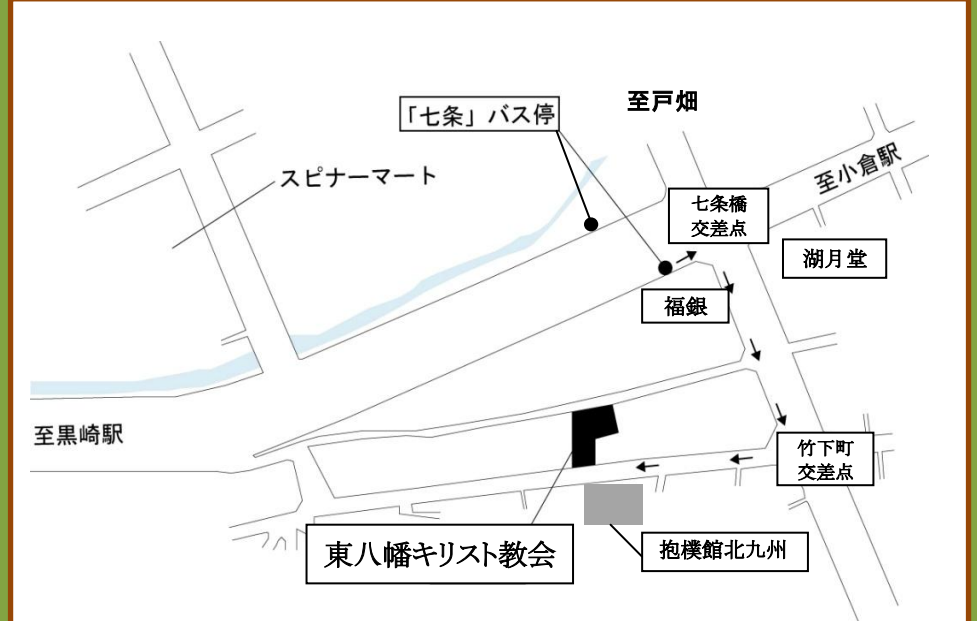
- ・主日礼拝(一般の部)  
毎週日曜 午前10時30分より
- ・子ども礼拝(小学生以下の部)  
毎週日曜 午前9時30分
- ・少年少女会(中高生会)  
毎週日曜 礼拝後
- ・聖書の学びとお祈りの会  
夜の部 毎週水曜 午後7時30分  
昼の部 毎月第3水曜 午後1時

### 牧師へのご相談 随時受付中！

牧師へのご相談を受け付けています。お困りのこと、誰にも相談できないこと、何でもかまいません。一人で悩まずにご相談ください。ともかく一緒に悩みましょう！牧師には守秘義務がありますので、安心してご相談ください。

電話093-651-6669

- ### 【今後の行事予定】
- 7月31(日) 奥田知志牧師キリスト教講演会
  - 8月14(日) 戦争被害者追悼平和祈念礼拝
  - 27(土) 荒生田塾読書会(16:00～高橋源一郎氏の本)
  - 10月22(土) 荒生田塾 沢知恵ピアノ弾き語りコンサート
  - 23(日) キリスト教講演会
  - 11月23(水) 教会バザー
  - 12月18(日) クリスマス主日礼拝・祝会
  - 24(土) クリスマス・イブ キャンドルサービス
  - 1月1(日) 元旦礼拝
  - 14(土) 荒生田塾読書会(16:00～高橋源一郎氏の本)
  - 15(日) 神の家族を覚える礼拝
  - 2月25(土) 荒生田塾講演会(講師：高橋源一郎氏)  
※交渉中・日付も未確定
  - 26(日) キリスト教講演会
  - 4月16(日) イースター礼拝



〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40  
 電話/FAX (093) 651-6669 ホームページ: 東八幡キリスト教会 検索  
 Email: higashiyahata.ch.1955@nifty.com  
 牧師: 奥田 知志 石橋 誠一  
 協働牧師: 藤田 英彦 森松 長生 齊藤弘司